



THE FANTASTIC FOURTH (FORCE - 協力→成長)

瀬戸SOLAN学園初等中等部
2026年度第4学年 学年通信
第27号 6月8日発行
4年1組の様子

「非日常」は「日常」を見つめ直す機会を与えてくれる。

日間賀島での「海的生活」は、まさに非日常の日々でした。しかし、こうした行事はすべて「日常生活の延長線上」にあります。だからこそ、普段の良いところも課題も、行事はすべて浮き彫りにしてくれます。

学校に戻った4年1組では、さっそく振り返りを行いました。

良い点としては、「自分の役割を果たそうとすること」「困ったときに助け合えること」「たくさん笑うこと」などが意見として挙がりました。

一方で、子どもたちが自ら気づいた課題は次の2点に集約されます。

- ① 集合・整列までに時間がかかる
- ② 片付けや整理整頓が苦手である

自分たちの姿を見つめ直せたのは大きな成長です。

この課題を改善すべく、

「日常生活の質」をさらに高めていきます！



日記を出す子が増えてきました。

最近、日記を提出する子が増えてきました。日記は作文力を磨くだけでなく、自分の内面を見つめ、考える力を育む素晴らしいものです。

さて、ある子が日記帳に書いてくれた文章を紹介します。なぜこれを書こうと思ったのかは分かりませんが、夏目漱石の『吾輩は猫である』のパロディです。

吾輩は人間である。名前は〇〇。父がつけた名前だ。感想は、まあまあだ。どこで生まれたかについては、〇〇県である。なんでも暖かいポカポカしたところで、眠っていたことなどを記憶している。自分は人一倍大きかったようだ。この世に生まれて、幸せである。これからもこの世を楽しみたい。

日記帳は、決められた枠に沿って書くだけの場所ではありません。私は、こうした子どもたちの「自由な発想や表現」が飛び出す空間であってほしいと思っています。これからも、子どもたちの等身大の言葉やユニークな視点に出会えるのが楽しみです。